

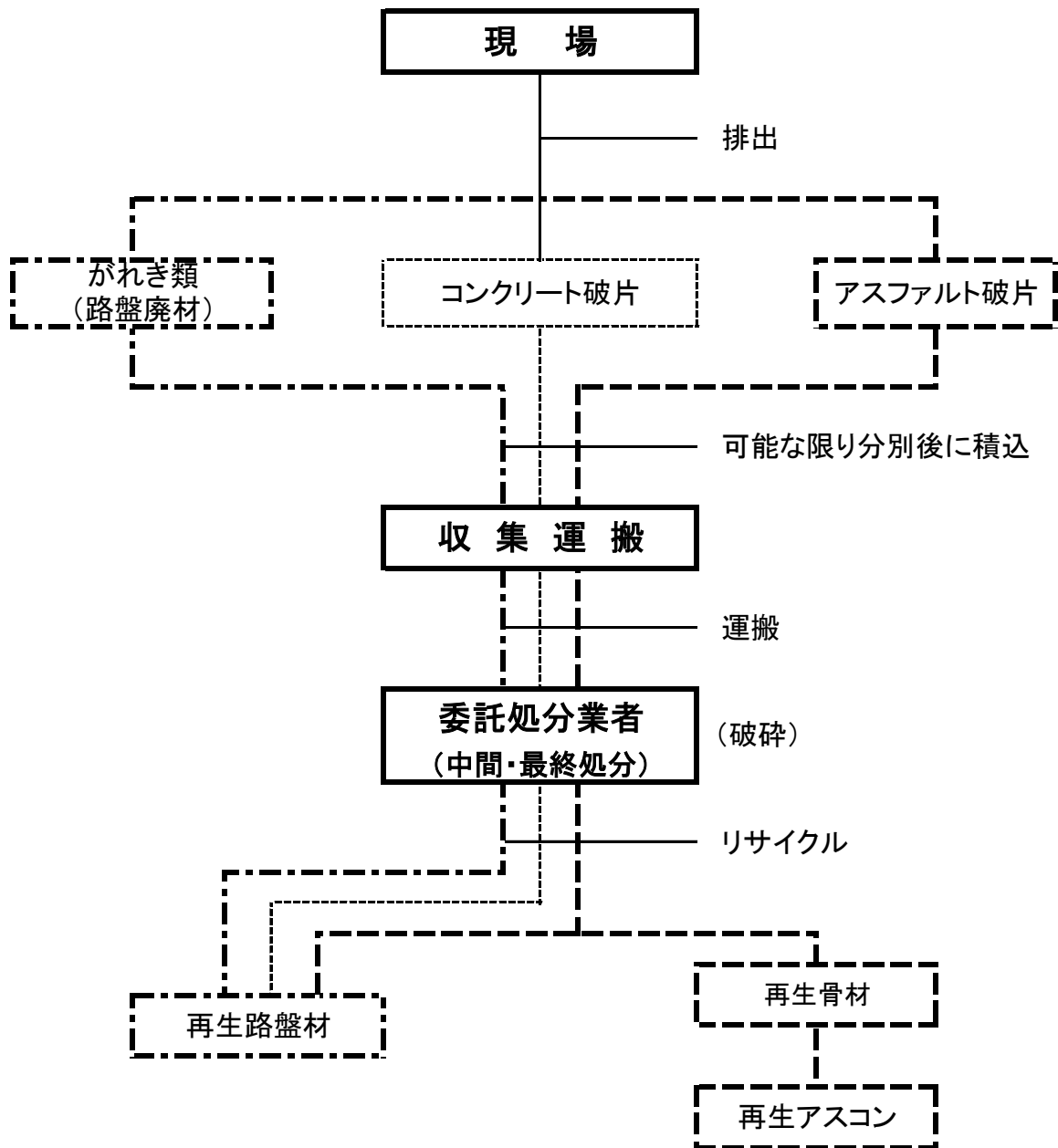
様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和7年5月30日	
大阪市長 殿	
提出者	
住所 大阪市鶴見区今津北2-3-26	
氏名 協和道路株式会社	
代表取締役 青木 鉄平	
（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）	
電話番号 06-6969-1665	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	協和道路株式会社
事業場の所在地	大阪市鶴見区今津北2-3-26
計画期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	06 総合建設業
②事業の規模	完成工事高 15億4千万円
③従業員数	60人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

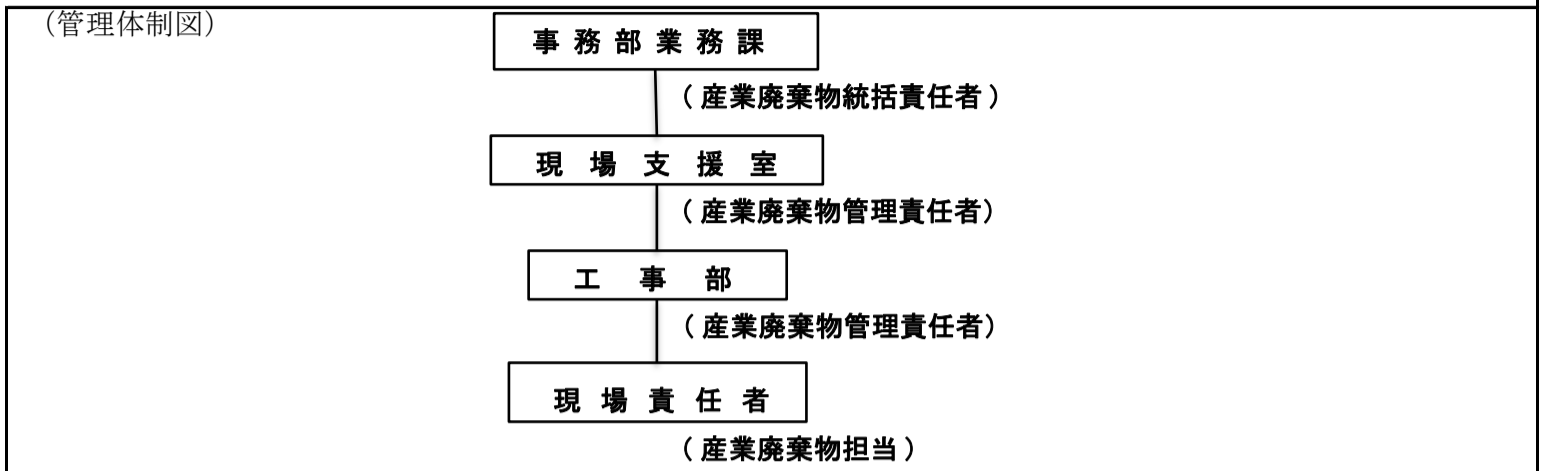
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程

道路建設工事
(舗装工事)



- ・ がれき類 ⇒ 再生処理業者に委託し、破砕作業後に再生路盤材として再資源化 (路盤廃材)
- ・ コンクリート破片 ⇒ 再生処理業者に委託し、破砕作業後に再生路盤材として再資源化
- ・ アスコン破片 ⇒ 再生処理業者に委託し、破砕作業後に再生路盤材・再生アスコンとして再資源化 (アスファルト破片)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	がれき類	コンクリート破片	アスファルト破片
	排出量	55.54 t	825.86 t	1615.56 t
	(これまでに実施した取組) ・産業廃棄物の排出量は、年度毎の請負工事の受注量によって左右され排出量の総数も未確定な為、工事受注毎にロスが少ない工事方法や廃棄物の分別等の工事検討を行い排出の抑制を行っている。 ・産業廃棄物の再利用及び適正処理を行うために、可能な限り廃棄物の分別を行い、地理的立地を考慮して適正な処分業者に処理を委託している。			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	がれき類	コンクリート破片	アスファルト破片
	排出量	50 t	800 t	1600 t
	(今後実施する予定の取組) ・現状の方法を継続する。			

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・Coガラ、Asガラ、がれき類（路盤廃材等）など、形状・種類に応じて可能な限り分別し、処分業者に委託を行っている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・現状の方法を継続する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	がれき類	コンクリート破片	アスファルト破片
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・特に実施していない。			
	【目標】			
②計画	産業廃棄物の種類	がれき類	コンクリート破片	アスファルト破片
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・実施予定なし。			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	がれき類	コンクリート破片	アスファルト破片
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・特に実施していない。			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	がれき類	コンクリート破片	アスファルト破片
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・実施予定なし。			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	がれき類	コンクリート破片	アスファルト破片
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・特に実施していない。			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	がれき類	コンクリート破片	アスファルト破片
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・実施予定なし。			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	がれき類	コンクリート破片	アスファルト破片
	全処理委託量	55.54 t	825.86 t	1615.56 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	0 t	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	55.54 t	825.86 t	1615.56 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・地理的立地を考慮して、適正な産業廃棄物処理を委託できる業者を選定し、書面又は電子による『建設廃棄物処理委託契約書』を交わして委託契約を締結している。 ・委託処理業者に対して、処理状況の現地確認を行う。			

		【目標】			
		産業廃棄物の種類	がれき類	コンクリート破片	アスファルト破片
②計画	全処理委託量		50 t	800 t	1600 t
	優良認定処理業者への処理委託量		0 t	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量		50 t	800 t	1600 t
	認定熱回収業者への処理委託量		0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		0 t	0 t	0 t
			(今後実施する予定の取組) ・現状の方法を継続する。		
※事務処理欄					

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。